

令和4年度

”見て・触れて・感じて”  
文化観光体験プラン創出モニター事業

モニター参加者募集

今年度、八重瀬町中央公民館具志頭分館改修後の施設運用方法についてモニター事業を開催することになりました。また本事業を実施検証し、これからの八重瀬町の持続可能な観光メニューとして作りあげ大きく発信していく予定です。

内容は自然文化を「見て・触れて・感じて」SDGs17の目標達成に向けた取り組みを基本とした持続可能な観光メニュー開発を目標とした事業です。

この機会に是非ご参加ください。

”見て”触れて”感じて”文化観光体験プラン創出モニター事業

内容

「自然散策」「文化芸能」「農業」「食育」「恒久平和」を内容とする2日間の体験事業

集合場所

八重瀬町中央公民館  
具志頭分館

参加料金

無料(但し、会場までの旅費は自己負担とします)

第1回

定員20名

12月17日(土)・18日(日)

参加対象:大学生・専門学校生

午前9時～

第2回

定員20名

～延期～

参加対象:小学生

午前9時～

第3回

定員20名

2月18日(土)・19日(日)

参加対象:一般(社会人)

午前9時～

令和4年度八重瀬町無形文化財活用推進事業(一括交付金事業)

「八重瀬町文化観光体験プラン創出モニター事業」

事業主体:一般社団法人八重瀬町観光物産協会

連携自治体:八重瀬町教育委員会

連携団体:(合)ぐらんま、八重瀬町ガイドの会、ていーだ観光(株)

(合)denenおきなわ、八重瀬歌舞団、沖縄県環境科学センター

体験内容 ～地域人材・資源の活用～



我が国は第二次世界大戦で多くの尊い命を失いました。特に地上戦が激しい沖縄は、県民の4人に1人、特にこの八重瀬町では町民の2人に1人が犠牲となりました。二度と同じ過ちを犯さないよう沖縄戦の実相について、平和の語り部・平和ガイドから学び、恒久平和について考える機会とします。

体験⑤  
恒久平和



SDGsの目標

- 4. 質の高い教育をみんなに
- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 16. 平和と公正をすべての人に

キリトリ

”見て”触れて”感じて”文化観光体験プラン創出モニター事業 申込用紙

※申込用紙に必要事項をご記入の上、①e-mail ②ファックス ③郵送でお申込みください。

ふりがな			
ご氏名	生年月日	年	月 日生
ご住所	〒		
携帯電話番号			性別
参加希望 (○を記入)	第1回 12/17・12/18	第2回 1/14・1/15	第3回 2/18・2/19
提出先	一般社団法人 八重瀬町観光物産協会 【電話】098-998-3300 【FAX】098-998-6600 沖縄県島尻郡八重瀬町字具志頭659番地 【E-Mail】yaese-kankou2@wine.ocn.ne.jp		

**体験①  
自然散策**

100種類を超える植物、オオゴマダラやシリケンイモリなど多くの生き物たちで囲まれた命の森「ホロホローの森」。

「ホロホロー」とはヤブニッケイのことを地元の人たちが呼ぶ方言名。

わずか600mほどの遊歩道「ホロホローの森」に自生するほとんどの植物には方言名がついているのです。それは、古くから人々が自然を愛し、そして自然と共に生きてきたあかしなのです。その「ホロホローの森」を歩き続けると自然の水族館と呼ばれる「ぐしちゃん浜」にたどり着きます。

昔からの変わらない姿を残した神秘的な自然を地元の専門ガイドと共に散策します。



■SDGsの目標

4. 質の高い教育をみんなに	11. 住み続けられるまちづくりを
13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう	

かつて琉球王国だった沖縄は、中国や日本、東南アジアの影響を受けながら独自の芸能を作りあげてきました。

沖縄の伝統芸能には、大きく「宮廷芸能」と「民俗芸能」の二つに分けられます。

「宮廷芸能」とは、中国からやってくる使いの人たちをもてなす歌や踊りで、古城を中心に行われました。「組踊」や「御冠船踊」などがそれにあたります。

「民俗芸能」は、村の繁栄や民の和睦を願って行われる年中行事、そして、まつりの中で奉納される歌や踊りなどがあげられます。

沖縄そして八重瀬町の芸能を発信し続ける「八重瀬歌舞団」。その「八重瀬歌舞団」の磨き上げられた演舞を披露、または体験指導を行います。

**体験②  
伝統文化継承**



■SDGsの目標

4. 質の高い教育をみんなに	8. 働きがいも経済成長も
11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任つかう責任

地域人材・資源の活用

体験内容

食育は、生きるための基本。これからは健全な食生活を実現することができる人材を育てることが必要です。

郷土料理は、それぞれの地域でしか収穫されない産物を風土に合った食べ物に調理し、食べ続けてきました。

これまで沖縄が長寿県として維持し続けたのは、伝統食(郷土料理)を食べていたことも理由の一つだと言われています。

地元のアンマーといっしょに昔ながらの調理方法を学び、食を通じた健康について考える機会をつくります。

**体験③  
食育**



■SDGsの目標

2. 飢餓をゼロに	11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を

生命維持産業である農業は歴史的にも文化の発展に大きく影響を与えてきました。しかしながらその生産現場は、自然環境に大きく影響を受けています。

「カラバジ」プロジェクトを通じた農業を体験することで自然と生命の維持を考え、循環の原理について考える機会をつくります。

**体験④  
農業**



■SDGsの目標

6. 安全な水とトイレを世界中に	11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう	